

日本協同組合学会 Newsletter

Vol. 35 No. 3 (通巻 98 号)

2023 年 8 月 15 日

～秋季大会案内号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 北川太一
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地 飯田橋レインボービル 5 階
一般社団法人日本協同組合連携機構内 日本協同組合学会事務局
TEL:03-6280-7254 FAX : 03-3268-8761
E-mail:kyodo-gakkai@japan.coop
ホームページ : <http://www.coopstudies.com/>

日本協同組合学会第 43 回大会

- ◆ 主催 : 日本協同組合学会
- ◆ 会場 : 明治大学駿河台キャンパス

日時	内容	会場
9 月 8 日 (金) 10:00～17:00	個別論題報告・テーマセッション (オンライン) 特別シンポジウム	対面 : 明治大学駿河台キャンパス オンライン : ZOOM
9 月 8 日 (金) 18:00～19:30	理事会	対面 : 明治大学駿河台キャンパス オンライン : ZOOM
9 月 9 日 (土) 9:50～17:55	挨拶・大会シンポジウム 韓国特別講演 臨時総会・新理事会	対面 : 明治大学駿河台キャンパス オンライン : ZOOM (新理事会は対面のみ)
9 月 9 日 (土) 18:00～20:00	交流会	Patia 新御茶ノ水店
9 月 10 日 (日) 10:00～15:00	個別報告・テーマセッション 韓国特別報告 (対面)	対面 : 明治大学駿河台キャンパス

1 日目 個別論題報告・テーマセッション(オンライン)

- ◆ 開催日 : 2023 年 9 月 8 日 (金) 10 時～12 時
- ◆ オンライン参加 (Zoom)

1日目 特別シンポジウム(対面/オンライン)

- ◆ テーマ：日本の協同組合の実践からアイデンティティの議論を深める
- ◆ 共催：(一社) 日本協同組合連携機構 (JCA)
- ◆ 開催日：2023年9月8日(金) 13:00～16:00
- ◆ 会場：明治大学・駿河台キャンパス 9階 1096教室／オンライン参加可
- ◆ 登壇者控室・打ち合わせ場所 リバティタワー9階 1092教室

趣旨

ICAが協同組合のアイデンティティ(定義・価値・原則)に関する世界的協議を2021年12月のソウル大会を起点に開始した。日本の協同組合でもこれを機会として活用すべく、2022年度は学習活動に取り組み、今年2023年度は「これからの協同組合を話し合うワークショップ」等の開催を呼び掛け、ワークショップ結果等に基づきJCAとしての提言を取りまとめることとしている。

本シンポジウムでは、世界的な協議の動向と日本の取り組みについて会員と共有したうえで、日本の協同組合をめぐる状況とその実践をふまえ、JCAからアイデンティティをめぐる論点を提起し、会員間で議論を深める。

プログラム

座長：伊丹謙太郎(法政大学大学院 連帯社会インスティテュート 教授)

- (1) 基調報告「協同組合アイデンティティに関する世界的協議の動向と日本の取り組み」伊藤治郎会員(日本協同組合連携機構常務理事)
- (2) 取り組み報告①「ワークショップの開催状況と協同組合アイデンティティをめぐる論点」前田健喜会員(日本協同組合連携機構 CI・国際・研究チーム部長)
- (3) 取り組み報告②「日本協同組合学会春季研究大会から」向井忍会員(地域と協同の研究センター(大会現地実行委員会)専務理事)
- (4) オープンディスカッション

2日目 大会シンポジウム(対面/オンライン)

- ◆ テーマ：共益と同時に公益を求める協同組合像
ー「経済的目的」と「社会的目的」の実現に向けてー
- ◆ 開催日：2023年9月9日(土) 10:00～16:20
- ◆ 会場：明治大学・駿河台キャンパス リバティタワー9階 1093教室／オンライン参加可
- ◆ 登壇者控室・打ち合わせ場所：リバティタワー9階 1091教室・1092教室
- ◆ 座長：北川 太一(摂南大学)

<座長解題>

協同組合が、そのアイデンティティ(=この世に存在する証し)を確立するためには、①協同組合の理念と強み・有効性の明確化と共有、②協同組合らしい事業・活動としての実践、③協同組合の存在・実践に対する認知の広がりが必要であり、そのためには、共益(組合員にとっての利益)と同時に公益(資源や環境も含めた社会にとっての利益)を実現する協同組合像を明らかにしなければならない。A.F.レイドローの言葉を借りれば、「経済的目的と社会的目的を持った企業」である協同組合が、健全な事業体として組合員の経済的な利益を実現すると同時に、社会的な課題にも関心を払いながら持続可能な地域社会を創ることに積極的な役割を果たすことが求められていると言える。

本シンポジウムでは、生活・暮らし、地域経済、資源管理、農業と福祉という四つの領域を取り上げて、共益と公益を求める協同組合の取り組み課題と将来像を明らかにしたい。シンポジウムの進め方として、まず各領域について研究者の報告をお願いし、報告後すぐに実践家も交えたコメント・質疑を行う。これらを踏まえた総合討論では、種別の協同組合や領域を超えた協同組合間連携のあり方、さらには協同組合の存在・実践に対する認知を拡大するための諸方策について考えていきたい。

<報告者とコメンテーター> (敬称略)

報告1 「生活の協同」から見る共益と公益 三浦 一浩 (生協総合研究所)

コメンテーター 齋藤 優子 (日本生活協同組合連合会)

報告2 地域経済振興の担い手としての協同組織金融 小関 隆志 (明治大学)

コメンテーター 堀井 真理生 (福井県中小企業団体中央会)

報告3 地域コミュニティが担う資源管理活動に協同組合が果たす役割

木原 奈穂子 (鳥取大学)

コメンテーター 荒井 絵理菜 (協同総合研究所)

報告4 農福連携におけるJAの取組みと役割～農業×福祉～ 濱田 健司 (東海大学)

コメンテーター 小松 淳 (高知県農業協同組合 営農販売事業本部)

<タイムスケジュール> 報告 35分、コメント 10分、報告・コメントに基づく質疑 20分

9:50～10:00 開会アナウンス、会長挨拶、開催校挨拶

10:00～10:10 座長解題

10:10～11:15 報告1、報告1に対するコメント、質疑

11:15～12:20 報告2、報告2に対するコメント、質疑

～昼食休憩～ (登壇者打合せ)

13:10～14:15 報告3、報告3に対するコメント、質疑

14:15～15:20 報告4、報告4に対するコメント、質疑

～休憩～

15:30～16:20 総合討論・まとめ

*大会シンポ終了後、韓国協同組合学会会長 金亨美氏による特別講演を行います。

3 日目 個別論題報告・テーマセッション(対面)

- ◆ 開催日：2023年9月10日（日）10時～15時
- ◆ 会場：明治大学駿河台キャンパス 8階 1084教室、1086教室、1087教室／9階 1095教室（4会場）／オンライン参加不可

韓国特別報告を午前中に予定しています。

LEE, Sang-Yun(Sungkonghoe University) “An Exploratory Study on Factors Affecting the Survival of Cooperatives in South Korea”

- ◆ 参加費：会員 1,500円／非会員 2,000円（対面参加・オンライン参加同額）

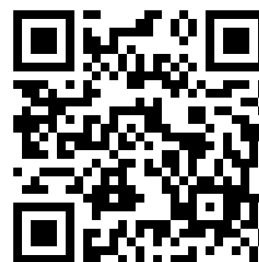
- ◆ 大会参加申し込み方法

参加申込フォームからお申し込みください。

申し込み期限は8月30日（水）です。

8月30日までに参加申し込みをした方には、報告要旨集とZOOMリンク（開封パスワード付）をお送りします。

<https://forms.gle/gWFN7JbGXgerT1as6>



- ◆ 参加費のお支払い方法

オンライン参加：8月30日（水）までに下記のリンク先から Square の決済ページに入り、クレジットカードにてお支払いください。レシートが自動的にメールで返送されます。入金の確認後、事務局より開封パスワード（報告要旨集・ZOOMリンク用）を送信します。開封パスワードは第三者に共有しないでください。

クレジットカードでの支払ができないという方は、学会事務局にご連絡ください。経理処理の関係で紙の領収証が必要という方も、学会事務局にご連絡ください。

オンライン参加として申し込んだ後、対面参加に切り替えてもかまいません。その場合、事務局へのご連絡は不要です。会場に直接お越しください。

なお、参加のキャンセルに伴う参加費の払い戻しはご容赦ください。

対面参加：事前にお支払いいただく場合は8月30日（水）までに下記のリンク先から Square の決済ページに入り、クレジットカードにてお支払いください。レシートが自

動的にメールで返送されます。入金の確認後、事務局より開封パスワード（報告要旨集・ZOOM リンク用）を送信します。開封パスワードは第三者に共有しないでください。大会当日にお支払いいただく場合は、受付にてクレジットカード、デビットカード、交通系 IC カード（Suica・PASMO など）、iD、QUICPay のいずれかでお支払いください。なお、現金でのお支払いは、お受けできませんのでご了承ください。

当日お支払いいただいた方には、領収書と開封パスワードをお渡しします。事前にお支払いいただいた方で、経理処理の関係で紙の領収証が必要という方も、学会事務局にご連絡ください。

対面参加として申し込んだ後、オンライン参加に切り替えてもかまいません。その場合、事務局へのご連絡は不要です。ZOOM リンクよりご参加ください。

なお、参加のキャンセルに伴う参加費の払い戻しはご容赦ください。

決済ページ

大会参加費（会員）	大会参加費（非会員）
支払額 1,500 円	支払額 2,000 円
https://square.link/u/Uu0GT1iK	https://square.link/u/RHyn4ifB
	

*決済は Square を利用し、決済手数料は学会費から負担します。Square について詳細はウェブサイト(<https://squareup.com/jp/ja>)をご参照ください。

臨時総会・学会賞授賞式・新理事会

- ◆ 開催日：2023 年 9 月 9 日（土）17:10～17:40
- ◆ 会場：明治大学駿河台キャンパス 9 階 1093 教室／オンライン参加
- ◆ オンライン参加の場合は以下の ZOOM リンクからご参加ください。

<https://zoom.us/j/93684244363?pwd=OERWTTY2S1duOExCNTRyYlpHc0dGdz09>

- ◆ 臨時総会では、役員の変更を予定しています。
- ◆ 臨時総会の直後に、同じ会場にて、新たに選出された理事による 22 期第 1 回理事会を対面で開催します（17:40～17:55）。



交流会

- ◆ 開催日：2023年9月9日（土）18:00～20:00
- ◆ 会場：レンタルキッチンスペース Patia（パティア）新御茶ノ水店
- ◆ 参加費 一般会員 4,000円／学生会員 3,000円（非会員は参加不可）
- ◆ 交流会参加申し込み方法

参加申込フォームからお申し込みください。

会場のスペースの制約上、参加人数が上限50名と設定されています。申し込み人数が上限に達した時点で、締め切りとさせていただきます。ご容赦ください。

<https://forms.gle/gWFN7JbGXgerT1as6>



- ◆ 参加費のお支払い方法

下記のリンク先から Square の決済ページに入り、クレジットカードにてお支払いください。レシートが自動的にメールで返送されます。

万が一、募集を締め切る前の時点で定員を超える人数のお支払いがあった場合は、先着順で受付を行い、定員超過分のお申し込みについては参加費を返金いたします。なお、参加のキャンセルに伴う参加費の払い戻しはご容赦ください。

- ◆ 定員までの余裕がある場合に限り、当日も交流会の参加を受け付けます。大会当日にお支払いいただく場合は、受付にてクレジットカード、デビットカード、交通系 IC カード（Suica・PASMO など）、iD、QUICPay のいずれかでお支払いください。なお、現金でのお支払いは、お受けできませんのでご了承ください。

- ◆ 決済ページ

交流会参加費（一般会員）	交流会参加費（学生会員）
支払額 4,000円	支払額 3,000円
https://square.link/u/oswXBxSv	https://square.link/u/8JSbUkSc
	

- ◆ *決済は Square を利用し、決済手数料は学会費から負担します。Square について詳細はウェブサイト(<https://squareup.com/jp/ja>)をご参照ください。

21期第5回理事会

- ◆ 開催日：2023年9月8日（金）18時～19時30分
- ◆ 対面参加：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー9階 1095教室
- ◆ オンライン参加（Zoom）

<https://zoom.us/j/94884461676?pwd=TjQzcmJmY2tUZlh0U252cDE5NFp2dz09>



会場までのアクセス・会場案内

大会：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

アクセスマップ

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html



交通：JR 中央線御茶ノ水駅、地下鉄御茶ノ水駅・新御茶ノ水駅・神保町駅より徒歩数分

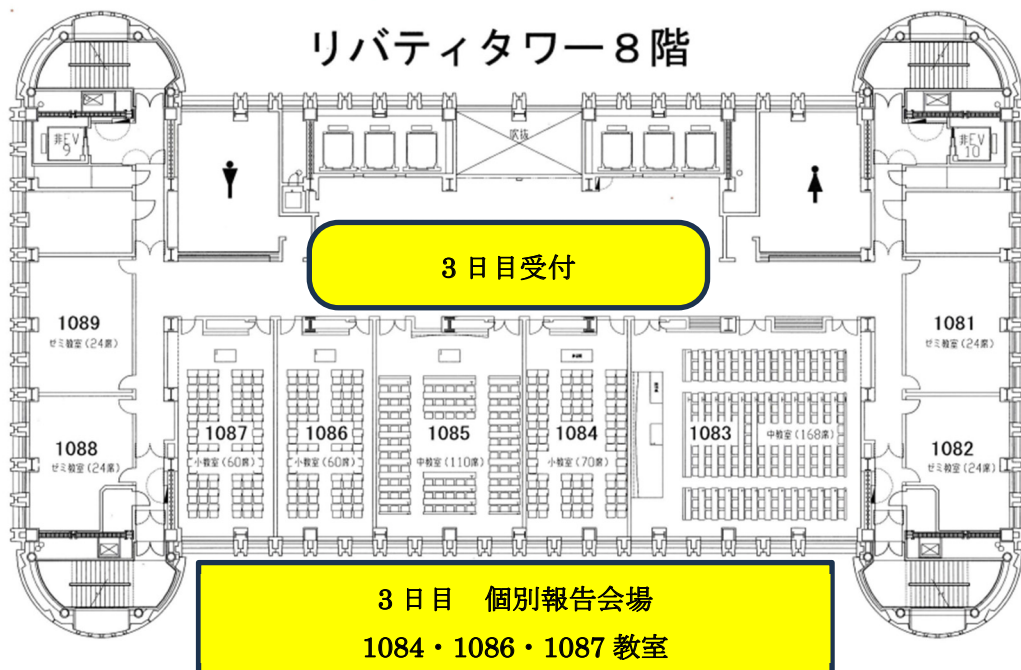
交流会：レンタルキッチンスペース Patia（パティア）新御茶ノ水店

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-1-1 大雅ビル 6F

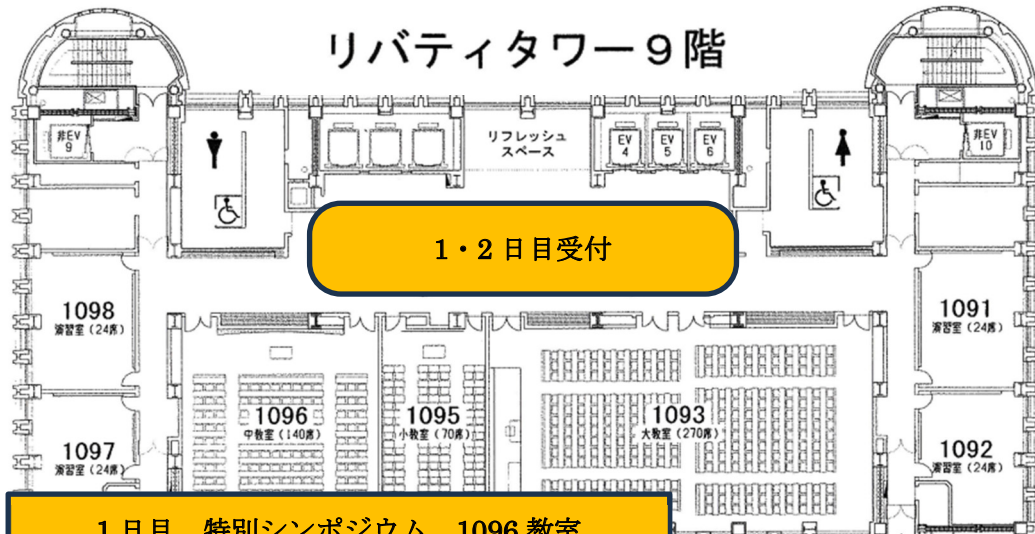
明治大学より交流会会場までは約 500m



フロアマップ



リバティタワー9階



1・2日目受付

1日目 特別シンポジウム 1096 教室
2日目 大会シンポジウム 1093 教室
2日目 総会・学会賞受賞 1093 教室
1・2日目 休憩室 1095 教室

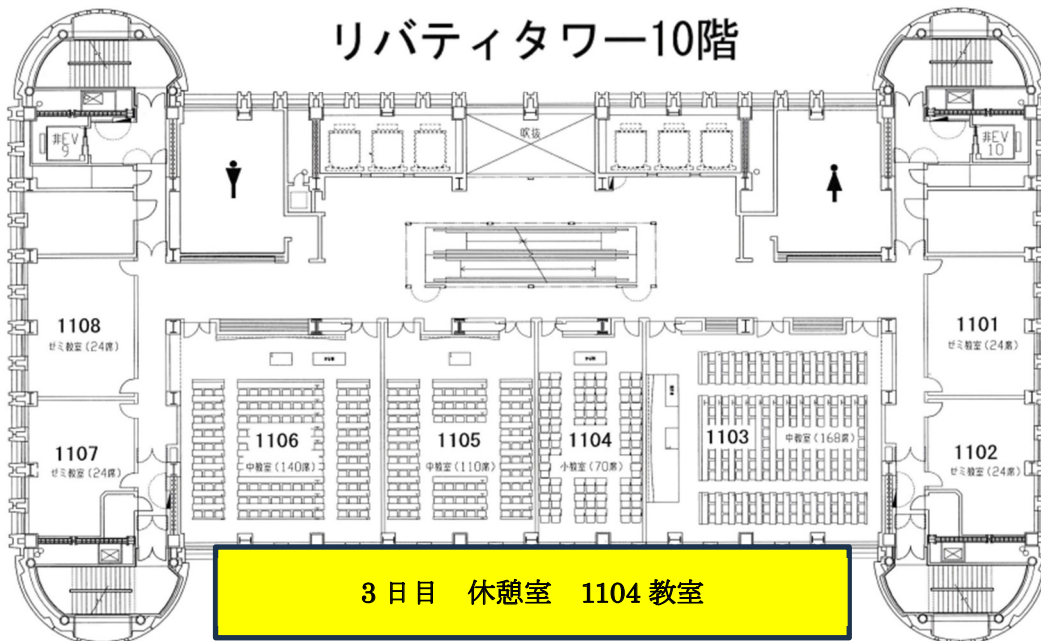
3日目 個別論題報告 1095 教室

1日目 理事会 1095 教室

1日目 控室 1092 教室
個別論題報告 (オンライン) 1091 教室

2日目控室 1091・1092 教室

リバティタワー10階



3日目 休憩室 1104 教室

第 41 回春季研究大会報告

実行委員長 安藤 信雄 (中部学院大学)

大会の概要

2023年6月3日(土)9時50分～18時まで、名古屋の生協生活文化会館(4階会議室)にて、特定非営利活動法人 地域と協同の研究センターとの共催で実施した。3日(土)のシンポジウムはオンラインを含めて98名(事務局含む)の参加で開催した。翌日4日(日)でのエクスカージョンは22名(現地参加3名含む)で実施した。二日間で111名の実参加で開催した。当日は台風2号で新幹線・在来線・高速道路が通行止めとなり、急遽オンラインでの参加に切り替えた方にも対応して実施できた。

本大会の特徴を一言で言えば、2021年12月に韓国でおこなわれたICA(国際協同組合同盟)での「協同組合アイデンティティ」の深化のための議論を受け、現在の日本社会の現状に対応するための「協同組合らしさ」をテーマにした。これらは今日の日本で市民社会が直面する様々な課題に対し、協同組合が1)理論的にどのように考えるのか、2)市民の新しい活動の特徴との関係で、どのように答えていくことができるのか、を議論する2部構成となった。

第1部は「『協同組合のアイデンティティ』への論点」として3人から報告を受けた。第2部は「東海から発信する新しい市民社会への途」として5組の市民活動団体から実践報告を受けた。

議論全体を通じて、現在、地域において進行している少子高齢化と人口減少が、国家として構築してきた社会制度の機能を持続できない恐れがあり、この事態を受けて各地で起こっている地域市民(外国人定住者を含む)の協同による助け合いを、協同組合がどのように対応しているのか、さらに今後していくことができるのかという点を議論するものとなった。

議論の準備と進行

大会の進め方としては、今まで地域と協同の研究センターで議論され、東海交流フォーラムで報告と交流を繰り返してきた地域活動を帰納的に議論し「新しい市民社会(市民協働)への途」を共有すること、またその事例を演繹的に議論する理論を事前に共有しようという2部構成が導き出されてきた。

その議論を受けて準備の殆どを現地実行委員会として共催する地域と協同の研究センターが担った。そのおかげで数年前から研究センターが続けてきた東海交流フォーラムで議論され報告されてきた市民活動の方々に登壇いただけることとなった。これは東海地域で長年の間、市民活動家と生協・農協が試行錯誤の積み重ねで築き上げられてきた事例であり、その活動の細部にまで研究センターがフィールドワークによって調査してきたものである。今回、それを学会で学問的に議論するという画期的な企画となった。

研究大会当日は、6月であるというのに、南方で発生した台風2号が日本本土南岸まで接近し

海上を通過する異常気象に見舞われ、梅雨前線を刺激した警報を伴う大雨により東海道新幹線は前日と当日午前東京・大阪間で不通となるというハプニングに見舞われた。全国からの学会参加者たちは、急遽、退避場所から遠隔会議システム Zoom によって参加してくれた。この Zoom システムは、これまた歴史的な出来事であるコロナウイルスによるパンデミックスの発生という事態に対応して普及してきた IT 技術を学会員が使いこなしてきたものである。つまりコロナ禍で学会員がパソコンで会議に参加することにすでに慣れていたことが幸いしたといえるだろう。

二日目の 6 月 4 日(日)のエクスカージョンは、一日目の第 2 部で紹介された愛知県新城市にある「やなマルシェ」の現場を訪れた。「やなマルシェ」では 6 月 2 日に豪雨災害に見舞われ泥だらけになった地域の復興活動をしながらいち学会一行を受け入れてくれた。バス参加者から急遽集めたお見舞金 25000 円を、協同組合学会長より会場で新城市社会福祉協議会(会長)に手渡した。

会場では加藤久美子さんによる「やなマルシェの紹介」、前澤さんは、新城市の自治基本条例づくりからの 10 年の活動内容を、八木さんはコープあいち=みかわ市民生協と自治振興事務所での活動経験が報告された。また名倉の篠原さんから重度障害児童を地元保育園入所から普通学校の名倉小学校へ受け入れる活動の報告がなされ、母親の後藤さんから家族が地域で暮らし続けたい思いが語られた。最後にいなぶ健康アカデミーの岩本さんからは、厚生連病院で働く三人の専門職員が始めた市民活動やコロナ対策が紹介された。6 月 3 日の大会での議論と 4 日のエクスカージョンをシンクロされた企画としてなされたことは議論と実態を合わせて理解する上で有意義であった。

何が論点になったか

向井忍氏(地域と協同の研究センター専務理事)より大会趣旨として、実践から市民協働の理論化をおこなうために協同組合らしさを自由に語ろうとの説明がなされた後、神田すみれ氏からは同質性は連帯を強める一方で異質の排除を生むという座長解題が示され、多様性を包摂する寛容なコミュニティとアソシエーションをどう作用させるのかと問うた。これを受けて第 1 部「協同組合のアンデンティティ」で、橋本吉広氏(友愛協同研究会)から「友愛(思想)とよりよい暮らし」、大橋充人氏(多文化社会と協同組合懇談会)から「在日ムスリムにおける協同の取り組み」、小野澤康晴氏(サードセクター研究会)から「協同組合研究と経済学の関係性」として制度派経済学の解説も含めて発表され、辻村英之氏(京都大学)より総括的コメントがなされた。

第 2 部では、鈴木稔彦氏(地域と協同の研究センター代表理事)より挨拶を受けた後、青木雅生氏(三重大学)より座長解題が示された。続いて清水孝子氏(岐阜県各務原市八木山地区社協)より「ささえあいの家」の活動について、平手まり子氏(三重県桑名市みえ医療福祉生協)より「ガーデン大山田」の活動について、加藤久美子氏(JA 愛知東女性部やな)より「やなマルシェ」の活動について、松原滋氏(コープぎふ飛騨支所)より「地域複合サロン」の活動について、上江洲恵子氏(愛知県高齢者生協)より「ケアセンターほみ」の活動について報告された。

これらの活動報告へのコメントとして向井清史氏(名古屋市立大学名誉教授)より、JA がコミュニティに依存して地域共通の金融をメインにする方向に進み専業農家が離反した点や、逆に生協は企業化することでコミュニティから距離が出てきた。JA は専業農家をどう取り込むのか、また生協のこれからは特定の事業のみを担う企業的存在になるか、コミュニティの多面的活動を担う存在になるかの岐路に立っているのではないか、と論点を示した。午前中に新幹線が不通となる中で駆けつけた松本典子氏(駒澤大学・日本 NPO 学会常務理事)より、午前と午後の報告には協同の 2 つの形があるのではないか、一つは「ささえ合い」という協同、もう一つは協同組合が媒介となって形成される協同があるといえるのではないか、とのコメントがあった。

大会議論の総括的な感想として

大会を総括できるほどの能力を私は持ち合わせていないが、本大会の感想として言えることは、日本でおきている少子高齢化、人口減少への転換(=多文化社会の進行)の中で協同組合とコミュニティの接点(周縁)で生じている協同組合への期待が内在化されていたということだろう。もう少し踏み込んで言うと、そうした社会変化の軸に備えなければ、日本の協同組合は企業体としては生き残るが自治組織としては衰退するだろうという危機感から生まれた議論だったのかもしれない。高度経済成長の中で拡大してきた日本の協同組合運動が、人口減少による市場の変化、少子高齢化による社会福祉制度の持続性への疑問視、老後生活を支えるコミュニティの未成熟、高齢化による農村地域での産業の疲弊と金融事業に支えられる農業協同組合の在り方の是非など、どれも従来的大量消費に支えられた経済の持続性への疑問と、地域住民の構成やつながり方が多様化していく新しい社会の仕組みの方向性に対して、有効性を示せるのかということだろう。またコミュニティ活動の側から連携相手として期待される存在となりえるのか、協同組合がどう実践とするのかも論点となっていたのではないか。今回の学会は ICA 大会での協同組合アイデンティティの議論を以上のように受けたものとなったと言えるだろう。

第 21 期常任理事会報告

第 10 回常任理事会

第 10 回常任理事会(2023 年 7 月 24 日)議事概要は以下の通りです。

1. 企画・学会賞

秋大会について、以下の内容が報告・提案され、意見交換の結果、これを承認した。

- 秋の研究大会および交流会の参加費の設定をコロナ以前に戻し、キャッシュレス決済を導入して参加費を徴収する。
- 特別シンポジウム「日本の協同組合の実践からアイデンティティの議論を深める」は、基調報告、2 つの取り組み報告、オープンディスカッションから構成される。大会シンポジウムと内容が重複しないよう留意し、タイムテーブルを今後検討する。
- 大会シンポジウム「共益と同時に公益を求める協同組合像——『経済的目的』と『社会的目

的』の実現に向けて」は、座長解題、4つの報告とコメント、総括討論から構成される。

- 個別論題報告・テーマセッションの応募が少ないこともあり、今後会員に対してリマインドを行う予定である。

学会賞（実践賞）について1件応募があり、今後審査委員を任命し、審査を行う予定であること、審査で承認されれば秋大会で表彰される予定であることが報告された。

2. 編集

- 査読の進捗状況、および『協同組合研究』第43巻2号（2023年12月号）と同第44巻第1号（2024年6月号）の編集方針が報告された。
- 学会誌電子化および編集進行管理の業務委託契約の内容について提案が承認された。今後、契約手続きを進め、理事会に報告する予定である。
- 投稿規程の改定案について詳細が提案され、いずれも承認された。改定の要点は、当行資格において新たに筆頭著者と責任著者を設けたこと、審査を三審制にしたこと、詳細な執筆要綱を整備したことである。11月16日より新投稿規程を施行する予定である。

3. 国際

- 韓国協同組合学会から、秋大会において同学会会員による特別報告、数名の学会員による大会参加の申し入れがあったとの報告があり、これを承認した。あわせて、同学会員を交流会に招待することとした。

4. 総務

- 次号のニュースレター（98号；秋大会案内号）の内容について報告があった。
- 会員の異動状況について、会費未納の会員に納入を促すこととした。
- 学会財政の収支構造に関する問題提起があった。
- 22期理事の選出状況が報告され、常任理事の選出は今後調整が必要との指摘があった。

会員メールアドレスのご確認について

☆ ご所属先等の登録内容に変更があった場合は、メールアドレスの登録変更をお願いいたします。現在の登録内容につきましては、学会バンク <https://gkb.jp/>の会員マイページにアクセスして確認いただくか、または、以前にお送りしました限定会員情報をご参照ください。

☆ 当学会では、会員間の情報交換、学会からのお知らせ等のためのメーリングリストを開設しております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、

kyodo-gakkai@japan.coop へ連絡ください。

会費納入のお願い

学会の研究活動促進のためにも、会費未納の方は速やかに納入していただくことをお願い致します。会費は学会バンクのオンライン納入システムを通じてクレジットカードによりお支払いください。普通会员は年 6,309 円、学生会員は年 3,155 円です。なお、領収書については学会バンクの会費納入履歴からプリントアウト可能です。

ご不明な点がございましたら、事務局へお問い合わせください。

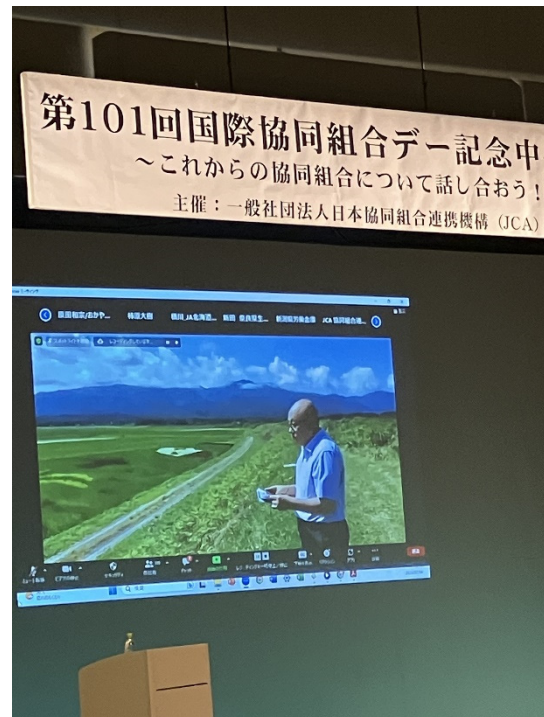
★ 会則第 6 条により、会費を 3 年以上滞納すると会員の資格を失うこととなりますので、ご留意ください。

第 101 回国際協同組合デー記念中央集会

伊藤 治郎（日本協同組合連携機構）

（一社）日本協同組合連携機構（JCA）では毎年、会員の協同組合全国組織と協力し、「国際協同組合デー」（毎年 7 月第 1 土曜日）に合わせ、記念中央集会を開催しています。国際協同組合同盟（ICA）は 2021 年 12 月、韓国ソウルで開催された大会で、「協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明」を、声明採択以降の世界の大きな変化を踏まえ、①学び理解し、②組織・事業・活動に活かすとともに、③検証し必要があれば改正するための、世界的な協議を開始することとしました。ICA からの提起を受け、JCA は、2022 年度を「学びの年」としたことに続いて、2023 年度を「話し合いの年」とし、地域・県域・全国域の協同組合や連携組織等での話し合いを呼びかけています。その一環として、7 月 4 日に開催された第 101 回国際協同組合デー記念中央集会では「これからの協同組合について話し合おう！」をテーマに、実参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催し、全国の協同組合関係者約 360 名が参加しました。

第 1 部では、JCA からの協同組合のアイデンティティの概要説明、また、アイデンティティに関わる実践事例として、①「みんなちがってみんないい」を合言葉に運営する「放課後等デイサービス GO！」（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 GO！上田地域福祉



佐渡トキ米プロジェクト

事業所 中山 睦美所長) ②JA・生協・行政の連携による「佐渡トキ応援お米プロジェクト」
(コープデリ生活協同組合連合会 永井 伸二郎副理事長、佐渡農業協同組合 渡部 学総務
部部長) の2本の報告が行われました。

第2部は実参加とオンラインに分かれ、小グループによるワークショップを実施し、①協
同組合のアイデンティティについてどう思うか(好きなところ、わからないところ、実践で
きているところ、やれていないところ)について意見交換をした後、②10年後を想定して
「これからの協同組合、こうあってほしい/こうしたい」について話し合い、将来像を描き
ました。

JCA では、地域連携組織や全国連での話し合いを支援するため、説明会やワークショッ
プ体験会、資材の作成等を行ってきました。現時点ではすでに開催したところを含め、4県
の国際協同組合デー集会で、地域連携組織10団体、県連合会や単位組合等4団体、全国3
組織で学習会やワークショップが開催されます。JCA はこれらの話し合いの場に出された
意見等をふまえ、JCA としての協同組合のアイデンティティに関する提言を策定し、2023
年度末を目途にICAに提出する予定です。



全体写真



ワークショップ風景

部会の活動報告

経済学経営学研究部会（兼：サードセクター研究会）

安藤 信雄（中部学院大学）

経済学経営学研究部会では、6月25日(土)13～17時に第25回部会を開催し第41回春季大会の議論を振り返り今後の研究と議論の方向性について討議した。大会での論点である「コミュニティとアソシエーション」「多様性と協同」「経済合理性と協同組合のアプローチ」について議論をどう発展させていくか議論された。「コミュニティ」でも時と場所、国によって異なる点をどうみるか、外国人とのフラットの関係、「人々の共通する願い」、ハイエクの知識の経済性の視点での議論の必要性などの意見が出された。

日程：第26回：8月20日(日)、第27回：10月22日(日)、第28回：12月17日(日)、第29回：2月18日(日)。いずれも13時～16時45分。Zoomと対面の併用。

会場：地域と協同の研究センター(生協生活文化会館内：名古屋市千種区稲舟通1～39)

TEL：052-781-8280. 参加希望者は、e-mailでca.smukai@gmail.comへ申込む。

・第26回：個別報告「工業生産における循環経済の取り組みと使用者の関係」（若原章博）

研究者コラム

段野 聡子（徳島大学）

近年において私が取り組んでいる研究の1つは、「エコノミックガーデニング」です。エコノミックガーデニングとは、アメリカ合衆国のコロラド州リトルトン市において編み出された地域経済活性化政策です。リトルトン市では、エコノミックガーデニングの導入により地域社会に税収の増加や雇用の創出など、大きな経済効果をもたらしました。

エコノミックガーデニングの特徴は、地域資源、地域資本を活用し、効率（市場原理）＋レジリエンス（社会原理）を持った地域の中小企業を地域主体により創出、育成するというものです。日本においても地域経済活性化の一手法としてエコノミックガーデニングが様々な地方自治体で導入されています。

しかしながら、中小企業と行政、中小企業と金融機関といった部分的な連携は行われていますが、全体を取り纏める中心的役割を担う存在がないことから、その経済効果はまだまだ大きく表れてはいません。

今後の研究として、産学公民金が連携して支援する有機的なネットワークづくり、社会的連帯経済の主要な担い手となるプラットフォームの構築について検討していきたいと思っています。そのためには、協同組合という、共通の目的をもった人たちが、その目的を達成するために組織した相互扶助組織の考え方が必要であると思います。